

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

事業報告書

第 4 卷

平成 29 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

巻 頭 言

看護キャリア支援センターが設立されて4年5ヵ月、看護職者のキャリア形成を支援、推進する継続教育の中核的事業を始動し4年が経過しました。この間、平成26年度から感染管理認定看護師教育課程を3年間開講し70名の修了生を輩出し66名の感染管理認定看護師が誕生しています。また、平成28年度から認定看護管理者教育課程（サードレベル）を開講し52名が修了し、新たに認定看護管理者19名が誕生しています。このような実績により、看護キャリア支援センターの役割が県内の看護職者に認知され、さらなる期待に繋がっていることを実感します。これまでの当センターの事業にご支援くださいました多くの機関・関係者の皆様に深く感謝しております。

今年度は、看護キャリア支援センターの第2ステージともなる、認知症看護認定看護師教育課程が開講しました。2025年には、認知症者が700万人を超えることが予測され、当事者のみならず地域においても医療・介護現場においても大きな課題となっております。認知症の各期に応じた療養環境の整備およびケア体制の構築と行動心理症状の緩和・予防は認知症看護認定看護師に求められる役割です。今年度は33名が約8ヵ月間の教育課程を修了しました。修了生は認知症者と家族に対する看護の質向上に貢献すると確信しております。

医療の進歩や人々の価値の変化、さらには医療・福祉の動向に伴う時代の要請に応えるために、変化に気づく感性とまなざしをもちながら、今後も看護職者のキャリア形成支援に取り組みたいと考えております。

石川県立看護大学
附属看護キャリア支援センター長
丸岡直子

目 次

(ページ)

| | |
|----------------------------|-------|
| I. 認知症看護認定看護師教育課程 | 1-6 |
| 1. 目的・目標 | 1 |
| 2. 実施状況 | 1 |
| 3. 実施内容 | 1 |
| 4. 評価および今後の課題 | 4 |
| 5. 教育課程運営に関する評価と課題 | 5 |
| 6. 開講記念講演 | 5 |
| II. 認定看護管理者教育課程 (サードレベル) | 7-10 |
| 1. 目的・目標 | 7 |
| 2. 実施状況 | 7 |
| 3. 実施内容 | 8 |
| 4. 評価および今後の課題 | 10 |
| III. 感染管理認定看護師フォローアップ研修 | 11 |
| 1. 目的・目標 | 11 |
| 2. 実施状況 | 11 |
| 3. 実施内容 | 11 |
| 4. 評価 | 11 |
| 5. 今後の課題 | 11 |
| IV. 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」 | 12-13 |
| 1. 目的・目標 | 12 |
| 2. 実施状況 | 12 |
| 3. 実施内容 | 12 |
| 4. 評価および今後の課題 | 13 |
| V. 石川県看護教員現任研修事業 | 15-17 |
| ＜看護学教育におけるパフォーマンス評価＞ | |
| 1. 目的・目標 | 15 |
| 2. 実施状況 | 15 |
| 3. 実施内容 | 15 |
| 4. 評価 | 16 |
| ＜看護学教育の質を高めるための看護学校マネジメント＞ | |
| 1. 目的・目標 | 16 |
| 2. 実施状況 | 16 |
| 3. 実施内容 | 17 |
| 4. 評価 | 17 |
| 5. 今後の課題 | 17 |
| VI. 教育課程継続に関するニーズ調査 | 18-19 |
| 1. 目的 | 18 |
| 2. 方法 | 18 |
| 3. 結果 | 18 |
| 4. まとめ | 19 |

I. 認知症看護認定看護師教育課程

1. 目的・目標

- 1) 認知症者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得し、水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
- 2) 培った認知症看護の専門的な知識と技術を活かし、看護職に対して指導・相談対応できる能力を育成する。
- 3) あらゆる場において、認知症者の生命、生活の質、尊厳を尊重したケアを看護職や他職種と協働して提供できる能力を育成する。

2. 実施状況

【期間】

平成 29 年 7 月 5 日（水）～ 平成 30 年 2 月 14 日（水）

【履修生数】 33 名

【履修生の背景】

1) 基本属性

| | |
|----------|--|
| 性別 | 男性 7 名 女性 26 名 |
| 平均年齢 | 39.6 (30-50) 歳 |
| 所属施設の所在地 | 石川県：11 名、富山県：4 名、福井県：5 名、岩手県：1 名 栃木県：2 名、岐阜県：4 名、大阪府：1 名、徳島県：1 名 広島県：2 名、福岡県：2 名 |

2) 入学時の臨床経験年数と認知症看護に関する実務経験年数（表 1）

表 1 入学時の臨床経験と認知症看護に関する実務経験

| | 臨床経験（名） | 認知症看護に関する実務経験（名） |
|---------|---------|------------------|
| 3～5 年 | 2 | 3 |
| 6～10 年 | 9 | 15 |
| 11～15 年 | 9 | 10 |
| 16～20 年 | 8 | 5 |
| 21～ | 5 | 0 |
| 平均経験年数 | 13 年 | 10 年 |

3. 実施内容

【教育課程の実施状況】

認知症看護認定看護師教育課程の年間スケジュールを表 2 に示す。

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門基礎科目」と「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。修了要件は、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格することである。授業科目及び時間数を表 3 に示す。

表 2 年間スケジュール

| 日程 | 実施内容 |
|----------------|--------|
| 7月5日 | 開講式 |
| 7月～10月 | 講義・演習 |
| 11月6日～10日 | 見学実習 |
| 11月13日～12月15日 | 臨地実習 |
| 平成30年1月10日、11日 | 実習成果発表 |
| 1月22日 | 修了試験 |
| 2月14日 | 修了式 |

表 3 授業科目と時間数

| 授 業 科 目 | | 時間数 | |
|--------------------|-------------------------|-----|-----|
| 共通科目 | 看護管理 | 15 | 135 |
| | リーダーシップ | 15 | |
| | 情報管理 | 15 | |
| | 看護倫理 | 15 | |
| | 指導 | 15 | |
| | 相談 | 15 | |
| | 文献検索・文献講読 | 15 | |
| | 臨床薬理学 | 15 | |
| | 医療安全管理 | 15 | |
| 専門基礎科目 | 認知症看護原論 | 15 | 90 |
| | 認知症基礎病態論 | 15 | |
| | 認知症病態論 | 45 | |
| | 認知症に関わる保健・医療・福祉制度 | 15 | |
| 専門科目 | 認知症看護倫理 | 15 | 120 |
| | 認知症者とのコミュニケーション | 15 | |
| | 認知症看護援助方法論Ⅰ（アセスメントとケア） | 45 | |
| | 認知症看護援助方法論Ⅱ（生活・療養環境づくり） | 30 | |
| | 認知症看護援助方法論Ⅲ（ケアマネジメント） | 30 | |
| 認知症者の家族への支援・家族関係調整 | 15 | | |
| 学内演習 | | 90 | |
| 臨地実習 | | 180 | |
| 総時間数 | | 645 | |

【担当教員】

主任教員：徳田真由美（特任准教授）

担当科目：文献検索・文献検討、看護倫理、認知症看護原論、認知症看護援助方法論Ⅰ、認知症看護援助方法論Ⅱ、認知症看護援助方法論Ⅲ、認知症者の家族への支援・家族関係調整、学内演習、臨地実習

専任教員：堅田三和子（助教）

担当科目：看護管理、リーダーシップ、看護倫理、認知症看護原論、認知症看護倫理、認知症看護援助方法論Ⅰ、認知症看護援助方法論Ⅱ、認知症看護援助方法論Ⅲ、認知症者の家族への支援・家族関係調整、学内演習、臨地実習

【非常勤講師】

専門基礎科目、専門科目は認知症（看護）分野における第一線の認知症専門医、各専門医分野の大学の教授・准教授・講師、各専門医分野の医師や看護師、北陸3県の認知症看護認定看護師の方々に非常勤講師として講義・演習等を担当していただいた。非常勤講師と担当科目一覧を表4に示す。

表4 非常勤講師・担当科目

| 講師名 | 所属 | 担当科目 |
|-------|----------------------------------|-----------------------------------|
| 池田富三香 | 国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校 | 看護管理、看護倫理 |
| 多幡明美 | 石川県立高松病院 | リーダーシップ、認知症看護援助方法論Ⅰ |
| 吉村光弘 | 公立能登総合病院 | 情報管理 |
| 稲垣時子 | 国立がん研究センター東病院 | 情報管理 |
| 高柳由香里 | 恵寿総合病院 | 相談 |
| 北村 立 | 石川県立高松病院 | 臨床薬理学、認知症基礎病態論 |
| 阪上 学 | 国立病院機構金沢医療センター | 臨床薬理学 |
| 藤村政樹 | 国立病院機構七尾病院 | 臨床薬理学 |
| 中田恵子 | やわたメディカルセンター | 医療安全管理 |
| 山根隆子 | 国立病院機構金沢医療センター | 医療安全管理 |
| 高山成子 | 金城大学 | 認知症看護原論 |
| 林 浩靖 | 光ヶ丘病院 | 認知症看護原論、認知症看護援助方法論Ⅲ |
| 山田正仁 | 金沢大学附属病院 | 認知症病態論 |
| 野崎一朗 | 金沢大学附属病院 | 認知症病態論 |
| 池田篤平 | 国立病院機構医王病院 | 認知症病態論 |
| 栗田圭一 | 東京都健康長寿医療センター研究所 | 認知症に関わる保健・医療・福祉制度 |
| 寺本紀子 | 一般財団法人寺本社会福祉士事務所 | 認知症に関わる保健・医療・福祉制度 |
| 高道香織 | 国立長寿医療研究センター | 認知症看護倫理 |
| 田中ひとみ | 公立つるぎ病院 | 認知症看護倫理 |
| 向井紀子 | 富山赤十字病院 | 認知症看護倫理 |
| 福井亜紀 | 芳珠記念病院 | 認知症者とのコミュニケーション |
| 直井千津子 | 金沢医科大学病院 | 認知症看護援助方法論Ⅰ |
| 森垣こずえ | 金沢医科大学病院 | 認知症看護援助方法論Ⅰ |
| 久米真代 | 金城大学 | 認知症看護援助方法論Ⅰ |
| 松田美紀 | 石川県済生会金沢病院 | 認知症看護援助方法論Ⅰ |
| 湯浅美千代 | 順天堂大学 | 認知症看護援助方法論Ⅱ |
| 和田敏道 | 福井県立すこやかシルバー病院 | 認知症看護援助方法論Ⅱ |
| 新 博恵 | 地域医療機能推進機構金沢病院 | 認知症看護援助方法論Ⅱ |
| 鈴木みづえ | 浜松医科大学 | 認知症看護援助方法論Ⅱ |
| 嶋田由美子 | 公立松任石川中央病院 | 認知症看護援助方法論Ⅱ |
| 諏訪さゆり | 千葉大学大学院 | 認知症看護援助方法論Ⅲ |
| 川島由賀子 | 浅ノ川総合病院 | 認知症看護援助方法論Ⅲ |
| 七野奈美喜 | かほく市長寿介護科高齢者支援センター | 認知症看護援助方法論Ⅲ |
| 谷崎幸枝 | 岡部病院 | 認知症看護援助方法論Ⅲ |
| 高森巳早都 | 福井大学医学部附属病院 | 認知症看護援助方法論Ⅲ |
| 岩尾 貢 | 社会福祉法人鶴寿会サンライフたきの里 | 認知症看護援助方法論Ⅲ |
| 高見英子 | 金沢赤十字病院 | 認知症看護援助方法論Ⅲ |
| 原 等子 | 新潟県立看護大学 | 認知症者の家族への支援・家族関係調整 |
| 丸岡直子 | 石川県立看護大学 | 看護管理、リーダーシップ |
| 垣花 涉 | 石川県立看護大学 | 情報管理 |
| 浅見 洋 | 石川県立看護大学 | 看護倫理 |
| 石川倫子 | 石川県立看護大学 | 指導、医療安全管理 |
| 武山雅志 | 石川県立看護大学 | 相談 |
| 長谷川昇 | 石川県立看護大学 | 臨床薬理学 |
| 市丸 徹 | 石川県立看護大学 | 認知症基礎病態論 |
| 中道淳子 | 石川県立看護大学 | 認知症病態論 |
| 金川克子 | 石川県立看護大学 特定非営利活動法人いしかわ在宅支援ねっと | 認知症に関わる保健・医療・福祉制度 |
| 川島和代 | 石川県立看護大学 | 認知症に関わる保健・医療・福祉制度、認知症者とのコミュニケーション |
| 清水暢子 | 石川県立看護大学 | 認知症看護援助方法論Ⅰ |
| 石垣和子 | 石川県立看護大学 | 認知症者の家族への支援・家族関係調整 |

【臨地実習施設】

看護実践実習施設を表 5、見学実習施設を表 6 に示す。

表 5 看護実践実習施設と実習指導者

| 施設名 | 実習指導者（認知症看護認定看護師） |
|-------------------|-------------------|
| 医療法人社団浅ノ川総合病院 | 川島由賀子 |
| 金沢赤十字病院 | 高見 英子 |
| 社会医療法人財団薫仙会恵寿総合病院 | 高柳由香里 |
| 石川県済生会金沢病院 | 松田 美紀 |
| 石川県立高松病院 | 多幡 明美 |
| 独立行政法人地域医療機構金沢病院 | 新 博恵 |
| 公立つぎ病院 | 田中ひとみ |
| 医療法人社団芳珠記念病院 | 福井 亜紀 |
| 富山赤十字病院 | 向井 紀子 |
| かみいち総合病院 | 竹内 雅代 |
| 市立砺波総合病院 | 畑 真由美 |
| 国立病院機構北陸病院 | 吉岡真紀子、松井 常二 |
| 医療法人光ヶ丘病院 | 林 浩靖 |
| 福井大学医学部附属病院 | 高森巳早都 |
| 福井県立すこやかシルバー病院 | 和田敏道、和田博之、河合明泰 |

表 6 見学実習施設

| 訪問看護事業所施設名 |
|------------------------------------|
| 石川県立高松病院地域医療連携室 |
| 医療法人社団あさのがわ訪問リハビリ・訪問看護ステーション |
| 医療法人芳珠記念病院ほうじゅ訪問看護・リハステーション緑が丘 |
| 石川県医療在宅ケア事業団かほく高松訪問看護ステーション |
| 石川県医療在宅ケア事業団白山鶴来訪問看護ステーション |
| 地域医療機能推進機構金沢病院附属訪問看護ステーション |
| 石川県済生会金沢病院金沢訪問看護ステーション |
| 金沢赤十字病院訪問看護ステーション |
| 市立砺波総合病院砺波市訪問看護ステーション |
| 入居・入所施設名 |
| 有限会社朝日ケアあさひホーム吉作 |
| 特定非営利活動法人老人介護マトリックスとまり木グループホームとまり木 |
| 社会福祉法人共友会グループホームやたの |
| 社会福祉法人眉丈会特別養護老人ホーム眉丈園 |
| 社会福祉法人鶴寿会特別養護老人ホームサンライフたきの里 |
| 社会福祉法人福寿会特別養護老人ホーム福寿園 |
| 社会福祉法人津幡町福社会特別養護老人ホームあがたの里 |
| 社会福祉法人あさひ会特別養護老人ホームあたかの郷 |

4. 評価および今後の課題

【履修状況に関する評価】

講義・演習・実習について、履修生全員が科目認定された。その上で修了試験を受け、全員が合格し、本教育課程の修了を認定された。

修了生 33 名は、平成 30 年 5 月に行われる認定看護師認定審査を受ける予定である。

履修生は教育課程の講義・演習・実習において多くの学びがあった。教育課程に関する意見については、アンケートを実施して把握した。

【実習の学びの内容の一部抜粋（実習記録より）】

- ・じっくり寄り添い関わる中で「もてる力」が多くあることに気づき、コミュニケーションの重要性を再認識できた。
- ・認知症者の自己決定する力は、決定する内容や状況に応じて変化する。日々のケアの場面で実際に行動の選択肢を提示してアセスメントし、自己決定する能力を発揮するための支援方法を検討する必要があることを学んだ。
- ・現状においても認知症者の思いや行動が意味することの背景を丁寧にアセスメントしていくことで、過ごしやすい環境や居場所を提供していけることが分かった。
- ・認知症ケアチームのシステムについて理解でき、それぞれの専門家がそれぞれの専門分野でできる支援に介入していく実際を学んだ。協働するための配慮についても学ぶことができ、自施設での実践をイメージできた。

【教育課程に関する意見の一部抜粋（アンケート結果より）】

1) 講義・演習

- ・素晴らしい先生方が講義してくださり、ありがたかった。
- ・共通科目で様々な授業のスタイルで教授していただいたことがとても記憶に残っている。演習・シミュレーションやディベートなど知識と技術を要するような講義は学びを実感することが多かった。
- ・教育課程が進むにつれ、認知症への理解を深めることができ、講義の順番や流れも良かった。受講した内容が実習で活かしていけるよう丁寧に教えていただいたため、比較的スムーズに実習に向かうことができた。

2) 実習

- ・実習指導者が、実習の目的、目標をしっかり把握しての指導だったので、焦点のあて方（アセスメント、計画など）がとても的確で、達成すべき課題を不足なく、偏りなく、大切なことを学ぶことができた。
- ・実習指導者が親身になって相談に乗ってくださり、行いたいケアや活動を行うことができた。

3) 日程など

- ・授業が4限までの日が多かったので、ゆっくり勉強できた。
- ・提出物の期限やテストの日程の調整、個人的な相談にも対応してもらい、感謝している。
- ・実習後、ケーススタディの成果発表までの期間が少し短かった。

5. 教育課程運営に関する評価と課題

教育課程の実施は、履修生の学習状況をみながら、科目の進度の変更などを実施した。履修生は、教育課程の目的・目標に見合った学びを深めることができたと考える。来年度よりカリキュラムの一部変更があり、履修生からの意見を反映して、カリキュラムの内容や日程を一部修正して実施していく。また、修了生からの意見を参考にフォローアップ研修を開始していく。まずは試験対策としたフォローアップ研修を4月に行う予定である。

6. 開講記念講演

座長 石川県立看護大学 老年看護学 川島 和代

平成29年7月8日（土）石川県立看護大学附属看護キャリア支援センターにおける認知症看護認定看護師教育課程の開設に伴い、認知症ケア学第一人者でいらっしゃる中島紀恵子先生をお招きし記念講演「認知症ケアの歴史—その時看護は—」を行った。本教育課程の受講生のみならず、中島先生の薫陶を受けた多くの修了生たちが集まり、先生の講演の一言一言を聞き逃すまいと耳を傾けた。

中島先生は高知女子大学家政学部看護学科（現高知県立大学看護学部）卒業され、北海道で駐在保健師として勤務後、千葉大学看護学部、日本社会事業大学を経て、93年～00年北海道医療大学看護福祉学部教授・学部長、看護福祉学研究科長、新潟県立看護大学学長、日本看護協会看護研修学校長等を歴任してこられた。ご専門は、老年看護学、認知症ケア学である。老人専門看護師や認知症看護認定看護師教育課程の基盤をつくり老年看護学の発展と後進の育成にその生涯をささげてこられた方でもある。

講演の要旨は、認知症ケアの歴史を概観し、これから認知症看護の専門家として学ぶ受講生へのエールを送ると同時に、認知症当事者と家族の視点を欠くことなくケアの質を高める実践力を持つよう後輩たちに託された講演であったと捉える。



遡ること30年以上前にわが国の高齢化率が10%を超えた1980年代後半には「老人看護学」の独立を高らかに主張された若き日の中島先生の姿が忘れられない。将来の老年人口の増加を予測して看護教育のカリキュラム改正に「老人看護」を正式な科目として採用したのも中島先生はじめ看護の先輩たちの時代を見越した判断があったと考える。しかし、当時は参考にするテキストも乏しく、ましてや認知症高齢者（当時は痴呆性老人）のケアはまったくの手探りであったと邂逅する。

1990年代に入ってから、ゴールドプラン、寝たきりゼロ作戦、老人保健施設痴呆棟の開設など高齢者の方々の自立支援を強く推進した時代であった。その一方で、寝たきり高齢者や認知症高齢者の家族の介護負担の増加が社会問題となり、高齢者虐待などが顕在化し、介護の社会化をうたった介護保険制度の創設へと法律の策定にひた走った。現実の高齢者の生活課題が先行し、政策が次々と打ち出された。その政策一つ一つの成立には常に認知症高齢者とその家族の視点から課題をみつめ、寄り添い、権利擁護を提言してこられた中島先生の存在をなくしては語れないと感じている。看護界のみならず福祉の視点からも多くの認知症ケアの専門家を育ててこられた。

高齢者ケアには研究による後押しが必要と1995年に「日本老年看護学会」を創設、第2代理事長に就任、続いて1999年には「認知症ケア学会」の創設に尽力された。看護学のみならず多職種が同じ土壌で認知症高齢者のケアの質向上に寄与する研究的基盤を築いてこられたと言えよう。しかし、中島先生は専門家が個人や住民の行動に価値をつけて判断することを厳に戒められ、つねに当事者の目線でケアを考える事を大切にこられた。今日のオレンジプラン・新オレンジプランの理念を先取りされてきた方である。

最後に、今、改めて考えたいこととして新たな学びのスタートに立った受講生達に認知症看護がめざす理念とゴールの鍵は、誰もがもつ潜在能力の発見と尊厳を支える環境づくりと力説された。私たちひとり一人に問いかける形で、再考を促す形で中島先生は講演を締めくくられた。その確かな解答はまだ、見えていないかもしれない。しかし、中島先生が生涯をかけて傾けてこられた認知症者が健常なときと変わらず生きていける社会をと願う夢を受け継ぎながら、ひとり一人が問いをもち続け実践していくことが重要なのではないかと教えられた。

この度の開講記念講演を快くお引き受けくださり、示唆に富んだ講義を頂いたことに厚く御礼申し上げます。

Ⅱ. 認定看護管理者教育課程（サードレベル）

1. 目的・目標

【目的】

- 1) 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために看護の理念を掲げ、それを具現化するために必要な組織を構築し、運営していくことのできる能力を高める。
- 2) 看護事業を起業し運営するにあたって、必要となる経営管理能力に関する知識・技術・態度を習得する。

【目標】

- 1) 保健医療福祉に関する法律・制度・政策および看護の動向を理解し、ヘルスケアサービスを提供するための方策が立案できる能力を養う。
- 2) 経営者、起業家の視点を持ち、常に看護の開発・創造につながる発想・マネジメントができる能力を養う。
- 3) 他者を尊重し自己研鑽に励む態度を培うとともに、看護のリーダーとしての倫理観や看護観を深化させ、自律した看護管理実践能力を養う。

2. 実施状況

【教育期間】

- I 期：平成 29 年 10 月 16 日（月）～ 10 月 26 日（金）
II 期：平成 29 年 11 月 6 日（月）～ 11 月 17 日（金）
III 期：平成 29 年 11 月 27 日（月）～ 12 月 13 日（水）
発表会：平成 30 年 1 月 19 日（金）

【履修生数】 24 名

【履修生の背景】

1) 基本属性

| | |
|----------|---------|
| 性別 | 女性 24 名 |
| 平均年齢 | 54 歳 |
| 所属施設の所在地 | |
| 石川県 | 11 名 |
| 富山県 | 9 名 |
| 福井県 | 4 名 |

2) 履修生の職位

| | |
|-----------|------|
| 看護部長 | 3 名 |
| 副看護部長 | 15 名 |
| 施設管理者 | 1 名 |
| 看護科長・看護師長 | 5 名 |

3. 実施内容

【カリキュラム】

認定看護管理者教育課程サードレベルのカリキュラムは、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは「保健医療福祉政策論」、「保健医療福祉組織論」、「経営管理論」、「看護経営者論」、「統合演習」であり、修了要件は、すべての教科目に合格することである。授業科目及び授業時間数を表1に示す。

表1 授業科目、単元及び時間数

| 授業科目 | 単元 | 時間数 | |
|-----------|-------------------------|-----|----|
| 保健医療福祉政策論 | 1) 社会保障の概念 | 3 | 30 |
| | 2) 諸外国の保健医療福祉 | 3 | |
| | 3) 保健医療福祉政策 | 3 | |
| | 4) 看護制度・政策 | 3 | |
| | 5) 制度・政策に影響を及ぼす看護管理者 | 6 | |
| | 6) 保健医療福祉政策演習 | 12 | |
| 保健医療福祉組織論 | 1) 保健医療福祉サービスのマーケティング | 6 | 30 |
| | 2) 組織デザイン論 | 18 | |
| | 3) ヘルスケアサービスの創造 | 6 | |
| 経営管理論 | 1) 医療福祉と経済論 | 3 | 60 |
| | 2) 医療福祉経営 | 9 | |
| | 3) 財務管理 | 12 | |
| | 4) 経営分析 | 6 | |
| | 5) ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性 | 6 | |
| | 6) 看護経営の今後のあり方 | 6 | |
| | 7) 労務管理 | 6 | |
| | 8) 人材フローのマネジメント | 6 | |
| | 9) 危機管理 | 6 | |
| 看護経営者論 | 1) 経営者論 | 12 | 45 |
| | 2) 管理者の倫理的意思決定 | 12 | |
| | 3) 看護事業の開発と起業 | 3 | |
| | 4) 実習 | 18 | |
| 統合演習 | 統合演習 | 15 | 15 |
| 総時間数 | | 180 | |

【担当教員】

主任教員 出口まり子（特任講師）

担当科目：保健医療福祉組織論（ヘルスケアサービスの創造）

看護経営者論（実習）、統合演習

【非常勤講師】

非常勤講師と担当科目一覧を表2に示す。

表2 非常勤講師・担当科目

| 講師名 | 所属 | 担当科目 |
|-------|--------------------|--|
| 中西容子 | 金沢市立病院 | 保健医療福祉政策論（保健医療福祉政策） 経営管理論（ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性） |
| 江藤真由美 | 石川県健康福祉部医療対策課 | 保健医療福祉政策論（看護制度・政策） |
| 大久保清子 | 福井県立大学 | 保健医療福祉政策論（制度・政策に影響を及ぼす看護管理者） |
| 越中のり子 | 国立病院機構富山病院 | 保健医療福祉政策論（演習） |
| 酒井陽子 | 国立病院機構七尾病院 | 保健医療福祉政策論（演習） |
| 高山一夫 | 京都橘大学 | 保健医療福祉組織論（サービスのマーケティング） 経営管理論（医療福祉と経済論） |
| 野村仁美 | 地域医療機能推進機構金沢病院 | 保健医療福祉組織論、統合演習 |
| 橘 幸子 | 福井医療短期大学 | 保健医療福祉組織論（組織デザイン論） |
| 藤田恵子 | 国立病院機構天竜病院 | 保健医療福祉組織論（組織デザイン論、演習） |
| 彦 聖美 | 金城大学 | 保健医療福祉組織論（ヘルスケアサービスの創造） |
| 中村真寿美 | 金沢医科大学病院 | 保健医療福祉組織論（演習）、統合演習 |
| 吉村光弘 | 公立能登総合病院 | 経営管理論（医療福祉経営） |
| 工藤 高 | 株式会社 MM オフィス | 経営管理論（医療福祉経営） |
| 川添高志 | ケアプロ株式会社 | 経営管理論（医療福祉経営） 看護経営者論（看護事業の開発と起業） |
| 山田雄一 | 山田雄一公認会計士事務所 | 経営管理論（財務管理） |
| 阿部 究 | 芳珠記念病院 | 経営管理論（財務管理） |
| 野中時代 | 桑名市総合医療センター | 経営管理論（経営分析） |
| 木谷幸子 | こすもす訪問看護ステーション金沢 | 経営管理論（看護経営の今後のあり方） |
| 榊原千秋 | コミュニティスペースややのいえ | 経営管理論（看護経営の今後のあり方） |
| 安田 忍 | 国立病院機構医王病院 | 経営管理論（労務管理） |
| 小藤幹恵 | 金沢大学附属病院 | 経営管理論（人材フローのマネジメント） |
| 樋木和子 | 金沢看護専門学校 | 経営管理論（危機管理）、看護経営者論（経営者論） |
| 富澤ゆかり | 金沢赤十字病院 | 看護経営者論（経営者論） |
| 青木きみ代 | 国立病院機構金沢医療センター | 看護経営者論（経営者論） |
| 吉田千文 | 聖路加国際大学 | 看護経営者論（管理者の倫理的意思決定） |
| 中西悦子 | 金沢大学附属病院 | 統合演習 |
| 池田富三香 | 金沢医療センター附属金沢看護専門学校 | 統合演習 |
| 大西真奈美 | 芳珠記念病院 | 統合演習 |
| 三井昌栄 | 公立松任石川中央病院 | 統合演習 |
| 山下順子 | 国民保険能美市立病院 | 統合演習 |
| 坂本和美 | 金沢市立病院 | 統合演習 |
| 金川克子 | 石川県立看護大学 | 保健医療福祉政策論(社会保障の概念,諸外国の保健医療福祉) |
| 浅見 洋 | 石川県立看護大学 | 看護経営者論（管理者の倫理的意思決定） |
| 木森佳子 | 石川県立看護大学 | アカデミックリテラシー |
| 小林宏光 | 石川県立看護大学 | 保健医療福祉組織論（組織デザイン論） |
| 石川倫子 | 石川県立看護大学 | 保健医療福祉組織論（組織デザイン論） |
| 丸岡直子 | 石川県立看護大学 | 看護経営者論（経営者論） |

【教育課程の実施状況】

年間スケジュールを表3に示す。

表3 年間スケジュール

| 日 程 | 実施内容 |
|------------|-------------|
| 10月16日 | 開講式 |
| 11月～12月 | 講義・演習 |
| 11月29日 | 臨地実習 |
| 平成30年1月19日 | 実習発表・統合演習発表 |
| 2月14日 | 修了式 |

4. 評価および今後の課題

【履修状況に関する評価】

講義・演習について、履修生全員が科目認定され、全員が本教育課程を修了した。修了生24名は平成30年5月に行われる認定看護師認定審査を受ける予定である。履修生の本教育課程に対する講義・演習・実習において8割以上が満足であるとの回答を得た。

1) 受講生の評価（自由記載：複数回答あり）

- ・看護部トップの講師の先生から、私達を育ててくださろうとしている熱意を感じた。
- ・倫理や人体工学、経営論など看護以外の講師の方の講義もとてもよかったです。現在部長職等において実践されている方々の講義はすぐに活かせる内容が多く、また大学の先生方の講義は管理者としてのベースとなるものが多く大変良かった。
- ・石川県でサードを受講できたことに感謝致します。
- ・県外で受講し、もっと他地域の現状と実践を学ぶという考えもあったが、北陸三県の管理者間のネットワークを上げられたことがよかった。
- ・すべての講義が有意義な内容であり、学びを多く得られることができた。演習では何度も振り返り、再考することの大切さとその効果（成果）が感じられ、マネジメントに活かす方法が身についた。
- ・統合演習に向けて実習が効果的であり、もう少し早い時期に実習ができると課題の明確化につながると思った。
- ・レポート課題の評価基準が明確だったのでよかったと思う。

2) 全体的評価と今後の課題

認定看護管理者（サードレベル）教育課程は2年目を迎え、北陸3県より24名の応募がありました。またはじめて訪問看護に関わる施設管理者も受講しました。地域包括ケアシステムを構築していく上で、地域連携の強化、組織変革のリーダーシップを担う看護管理者の育成には、訪問看護ステーションや老人保健施設に向けて拡大していくことも重要であると認識させられました。今後も訪問看護ステーションや老人保健施設の看護管理者の募集及び受講ができるようにしていく。また開講時期についても検討を重ねる。

Ⅲ. 感染管理認定看護師フォローアップ研修

1. 目的・目標

【目的・目標】

感染管理認定看護師として活動していくにあたって、一人ひとりの課題解決に繋げる。

2. 実施状況

【参加者数】 52名



シンポジウムの様子

3. 実施内容

表 1. 研修内容と講師

| 実施日 | 研修内容 | 講師 |
|----------|--------------------------|---|
| 9月30日(土) | 専従感染管理認定看護師 ～それぞれの軌跡～ | <p><座長> 金沢循環器病院 義井玲子(2期生) 恵寿金沢病院 井上直美(2期生)</p> <p><シンポジスト> 滋賀医科大学医学部附属病院 感染制御副部長/看護師長 竹村 美和 訪問看護ステーションひよどり管理者 (元富山大学附属病院 専従感染管理認定 看護師) 北川 洋子</p> <p>久藤総合病院 金谷 周(1期生) 市立池田病院 生地あけみ(3期生)</p> |

4. 評価

1期生から3期生の代表が集まり、感染管理認定看護師として活動するにあたって必要な研修内容を話し合い、上記の研修内容に決定した。参加者全員が今後の活動の参考になったと評価した。特に専従看護師として、日々試行錯誤している修了生にとっては、これからの活力となった。研修の企画を修了生の代表で決めたことで、今抱えている課題を解決できる研修内容となったと考える。

5. 今後の課題

今後も引き続き、各期の修了生の代表で研修内容を企画し、修了生のニーズに沿った研修を企画していく。

IV 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

1. 目的・目標

【目的】

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

【目標】

自施設の経営管理課題に対し、解決策を査定することができる。

2. 実施状況

石川県内 23 施設から 32 名が受講した。受講者の看護師経験年数は平均 26.3 年、管理者経験年数は平均 5.2 年、職位は看護部長・副看護部長・施設管理者 5 名、看護師長 27 名であった。なお研修前半 2 日を公開講座とし、延べ 88 名が参加した。

3. 実施内容

平成 29 年 9 月 8 日、9 月 9 日、9 月 29～30 日に下記の内容で、前半の 2 日は講義形式、後半の 2 日は講義・演習形式により研修を実施した。(表 1)。

表 1 .研修日程と内容

| 日 時 | 研修内容 | 講 師 |
|--------------|--------------------------------------|--|
| 9 月 8 日 (金) | | |
| 9:30～12:30 | 【公開講座】 看護と介護の連携を考える | 大阪保健福祉専門学校 副学校長 豊田 百合子 |
| 13:30～16:30 | 【公開講座】 人々の在宅療養を支援し 地域に根ざす病院の役割 | 脳神経センター大田記念病院 大田 章子 |
| 9 月 9 日 (金) | | |
| 9:00～16:00 | 【公開講座】 看護現場学から考える ナースのキャリア開発支援 | 横浜市立大学 看護キャリア開発支援センター長 陣田 泰子 |
| 9 月 29 日 (金) | | |
| 9:30～16:30 | 看護管理者のための 病院経営数字力 | 滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長 西村 路子 副看護部長 高見 知世子 |
| 9 月 30 日 (土) | | |
| 9:00～16:00 | 組織分析に基づく看護管理上の 課題解決に向けた戦略 | 滋賀医科大学医学部附属病院 看護部長 西村 路子 副看護部長 高見 知世子 (ファシリテーター) 林 春美 (石川県立中央病院) 高橋 ひとみ(公立松任石川中央病院) 河内 昌子 (石川県済生会金沢病院) 坂本 和美 (金沢市立病院) |

4. 評価及び今後の課題

1) 受講生のアンケートによる評価

(1) 研修内容の理解と活用 (図 1)

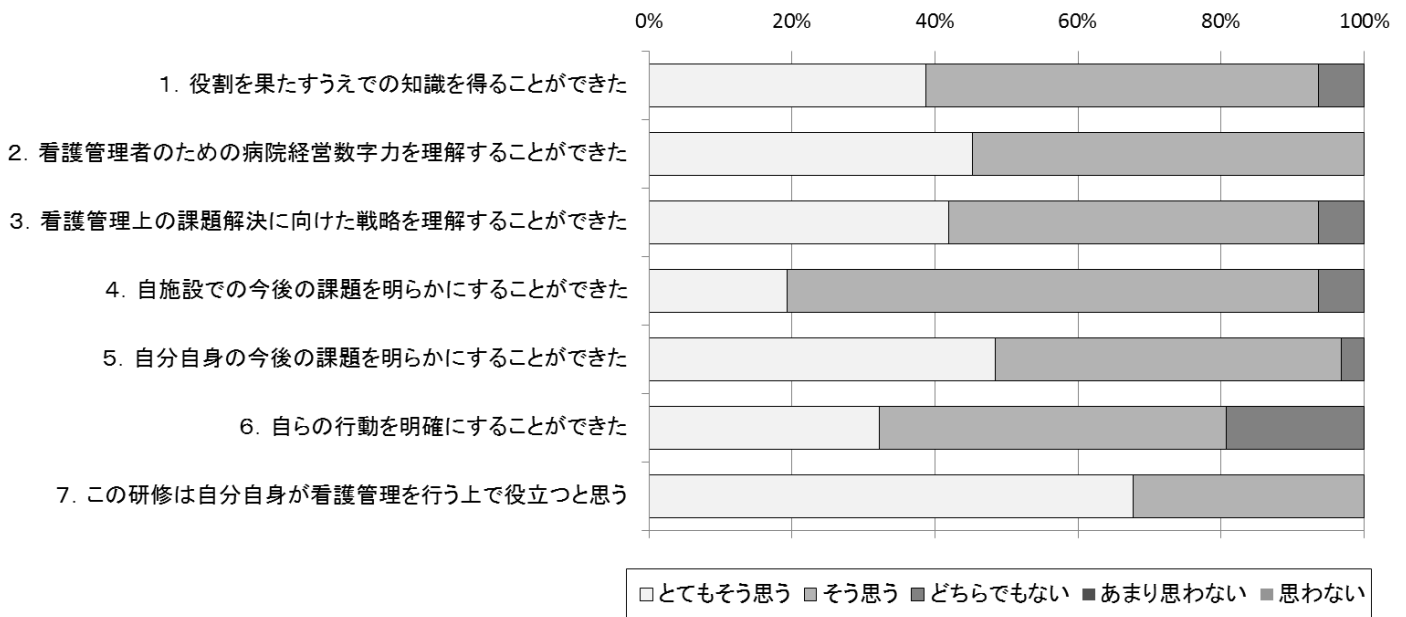


図 1. 研修内容の理解と活用

(2) 自由記載より (抜粋)

- どの講師の先生の話もわかりやすく、勉強になりました。医療を取り巻く仕組みが複雑で知らない事も多く、いろんな事にアンテナを張っていないといけないなと思いました。
- SWOT分析は自己流でやっていたけどようやく仕方がわかった気がします。
- 組織分析において、データの活用は不足していたと思う。また、問題と課題の違いが分かり、解決に向けての自分の考え方やるべき看護をどのようにアピールするかを看護管理者として考えさせられた。
- 今さらですが、「師長」が何をすべきなのか、役割を学ぶことができ、頭がクリアになりました。ありがとうございました。
- 経営に関することも学びつつ、しかし看護を保障し見失ってはいけない部分も感じとることができた。
- どの研修もとてもおもしろかったです。社会情勢を詳しく知ることができました。経営的数字も大切だが、やりたい看護はこういった事と改めて思いました。
- データ管理の重要性、看護管理者としてどうあるべきなのかを認識することができた。

2) 全体的な評価と課題

受講生全員が4日間の所定の研修に参加し修了した。

今年度の看護管理者経営研修では、昨年度に引き続き、地域包括ケアシステムの構築における医療施設の看護管理者の果たす役割を考究し、看護実践の改善につなげる内容を企画した。受講生も病院だけでなく訪問看護ステーション、介護施設を対象とした。ほとんどが看護師長であり、地域に果たす自施設の役割を再認識し、人々の在宅療養を支える看護の役割を再考できたのではないかと考える。

また、研修後半の内容は、多くのデータから組織分析する能力と看護管理上の課題解決を図る戦略と交渉力を向上させるものであった。受講生は、グループ討議によりデータを活用した業務改善や組織変革の具体的な方法を学んだ。最後には要望書を作成し、ロールプレイで発表することで、実践に活かせる場となったと考える。

受講生からのアンケート調査では、すべての受講生がこの研修は看護管理に有用であると回答しており、次年度も看護管理者経営研修を継続して開催したいと考える。



V. 石川県看護教員現任研修事業

平成 29 年度は看護教員のニーズに応え、「看護学教育におけるパフォーマンス評価」と「看護学教育の質を高めるための看護学校マネジメント」の 2 つの研修を実施した。

<看護学教育におけるパフォーマンス評価>

1. 目的・目標

【目的】

課題を解決する思考力・判断力・表現力を、育成するための授業づくりをパフォーマンス評価の観点から考える。

【目標】

看護学教育におけるパフォーマンス評価の理解を深め、授業を再考する。

2. 実施状況

【受講者数】 25 名

【参加施設】

病院 8 名

教育機関 17 名

【経験年数】

看護教員 1～33 年

新人看護職員研修担当 0～7 年

3. 実施内容

表 1. 研修内容と講師

| 日 時 | 研修内容 | 講 師 |
|--------------|---|---|
| 6 月 3 日 (土) | 看護学教育におけるパフォーマンス評価 【公開講座】 看護学教育におけるパフォーマンス評価の実際 ー実践報告ー | 石川県立看護大学 看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子 <コーディネーター> 石川県立田鶴浜高等学校 庄藤智恵美 石川県立看護大学 看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子 <パネリスト> 石川県立総合看護学校 寺本かおり 金沢医療センター附属金沢看護学校 西村 民子 公立能登総合病院 仙本 禎恵 |
| 6 月 17 日 (土) | 看護学教育における パフォーマンス評価の実際 ーパフォーマンス課題とルーブリックの作成ー | 石川県立看護大学 看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子 |

4. 評価

【受講者の学び（一部）】

- ・シミュレーション研修が多くなってきている中で、行動で到達度を評価していたが、行動に至る思考過程を評価していくと学んだ。ルーブリックは深めたいと思う。
- ・思考・判断力を身につけるためにパフォーマンス課題を実施したいと思った。今まで行動目標をあげるが多かったが、技能を身につけさせたいのか思考・判断・表現力を身につけさせたいのか自分の思考の整理になった。
- ・現場では学習者の行動に目を向けがちで評価しやすい傾向があるが、それに至った思考をきちんと振り返ることが重要であることがわかった。学習者の思考を導き出せる指導者も育てていく必要を感じた。
- ・自分達の考え方がどうしても枠にはめようとする考え方になっていること、看護に正解はないと学生にいいながらも1つの答えを求めてしまっていること、自分達の関わり方が学生の自由な発想を妨げているかもしれないと考えた。今後は今回の学びを現場で取り入れ、学生の思考、判断を育てていけるように関わりたい。

【全体評価】

課題解決型研修、全体運営は、全員がよかったと評価した。また教育活動を振り返る機会や教育活動の参考になったと全員が評価した。参考になった内容は、パフォーマンス課題のつくり方やルーブリックの考え方、活用の仕方が主で、これらの講義・演習をとおして、学生の捉え方が変化していた。概ね目的は達成できたと考える。



公開講座の様子



グループワークの様子

<看護学教育の質を高めるための看護学校マネジメント>

1. 目的・目標

【目的】

看護学教育の質を高めるための看護学校マネジメントを学ぶ。

【目標】

学生の学習の質を高めるために、各自がマネジメント課題を明らかにし、その解決方法を見出す。

2. 実施状況

【受講者数】 15名

【経験年数】
看護教員 1～33年

3. 実施内容

表 1. 研修内容と講師

| 日 時 | 研修内容 | 講 師 |
|----------|---|---|
| 8月25日(金) | 看護学校マネージメントの実際Ⅰ 1) 各自の課題の明確化 2) グループでの課題の明確化 【公開講座】 看護教育の質を高めるための 看護学校マネージメント | 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子 国立病院機構九州医療センター 附属九州看護助産学校 副学校長 内村 美子 |
| 8月26日(土) | 看護学校マネージメントの実際Ⅱ 1) グループでの課題の明確化と解決方法 を見出す 看護学校マネージメントの実際Ⅲ 1) 学習の共有のための発表 2) リフレクション | 国立病院機構九州医療センター 附属九州看護助産学校 副学校長 内村 美子 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 准教授 石川 倫子 |

4. 評価

【受講者の学び（一部）】

- ・実際に、学生の現状や研究から課題を明確にできたことで、教育に戻って解決策を他の教員と一緒にマネージメントしていこうと思ひ、方法も理解できた。
- ・マネージメントは何を中核に捉えるのかが明確になった。そこから、いろいろな事象の何をテーマに情報を得て、課題を見出すのかを知ることができた。「理解」までは至りませんが、今後、その力をつけていきたいと思う。
- ・教育活動はあくまでも“学生の学習”を中心に置かなければならないこと、学生の現象の意味、原因を掘り下げて考えなければならぬことを学んだ。
- ・マネージメントの視点としては、スタッフの抱えている悩みや現状について「なぜ?」「どういうこと?」と問いかけることで本人から導きだせることがあることを学んだ。活かしていきたい。
- ・話し合いが大切であり、組織的に取り組めるように共通認識が持てるような場づくりの必要性。

【全体評価】

課題解決型研修は、全員がよかったと評価した。また教育活動を振り返る機会や教育活動の参考になったと全員が評価した。経験年数に幅があったが、お互いの立場を理解でき、解決策を考える参考になったとの意見もあった。これらの講義・演習をとおして、学習の質を高めるためのマネージメントについて、概ね理解され、目的は達成できたと考える。

5. 今後の課題

2日間の研修では研修内容の理解にとどまり、実際に取り組めるまでにはいかない。受講生からも実際に取り組み、その評価までの研修を実施してほしいと要望があり、今後は1年間を通じて、教育現場の課題を解決できる研修を企画していく。

VI. 教育課程継続に関するニーズ調査

1. 目的

北陸3県における認知症看護認定看護師教育課程と認定看護管理者サードレベル教育課程の開講継続ニーズを把握し、開講計画に役立てる。

2. 方法

- 1) 期 間 平成 29 年 8 月 7 日～ 平成 29 年 8 月 21 日
- 2) 方 法 無記名自記式質問紙調査
- 3) 対 象 北陸 3 県の医療施設・介護施設・訪問看護施設の看護部長、もしくはそれと同等の職位の者
- 4) 質問内容 各教育課程の既資格取得者、受講者（調査時現在）、今後受講予定者数など。教育課程への要望・意見等自由記載

3. 結果

628 施設に配布、244 施設より回収した。無回答を除く有効回答率は 38.9%(241/628)で石川県 50.6%(117/231)、富山県 32.7%(73/223)、福井県 29.3%(51/174)であった。各課程の結果を表 1 に示す。

表 1 各教育課程の資格取得者、受講予定など

| | 認知症看護認定看護師 (定員 30 名/年度) | 認定看護管理者サードレベル (定員 25 名/年度) |
|-------------------|--|--|
| 既資格取得者 (人) | 33 | 85 |
| 受講者 (調査時現在) (人) | 22 | 27 (受講決定者) ※セカンドレベルまで修了者 426 ※セカンドレベル受講決定者 63 |
| 必要人数 (人) (①と②を除く) | 205 | 165 |
| 今後受講予定者数 (人) | 平成 30 年度 56 名 平成 31 年度 49 名 平成 32 年度以降 46 名 | 平成 30 年度 37 名 平成 31 年度以降 73 名 |
| 資格者が 1 人以上いる施設数 | 25 | 54 |
| 資格者がいない施設数 | 209 | 180 |
| 自由記載 | 継続開講希望は長期連続継続 6 施設、隔年継続 2 施設であった。地域枠希望は 2 施設であった。近県、県内に教育課程がある利便性は認識するが現場の人員不足（特に訪問看護ステーション）、希望者がいない、経済的理由等で受講者の調整が困難とする記載が多かった。 | 受講支援が難しいと記載した 18 施設はその理由に人員不足、時間がない、経済的問題を挙げた。継続開講希望は、毎年 4 施設、隔年 6 施設、2・3 年毎が 5 施設。近県、県内での開催で受講しやすいという記載は多かった。 |

4. まとめ

各教育課程とも必要人数と資格者がいない施設数が同等である一方、実際に資格者を有する施設は十分とはいえません。そのため開講を継続するニーズはあると考える。しかし臨床現場での受講させるための調整などの課題もある。今後もニーズ調査を行い、教育課程を継続するか否かを検討していく必要がある。